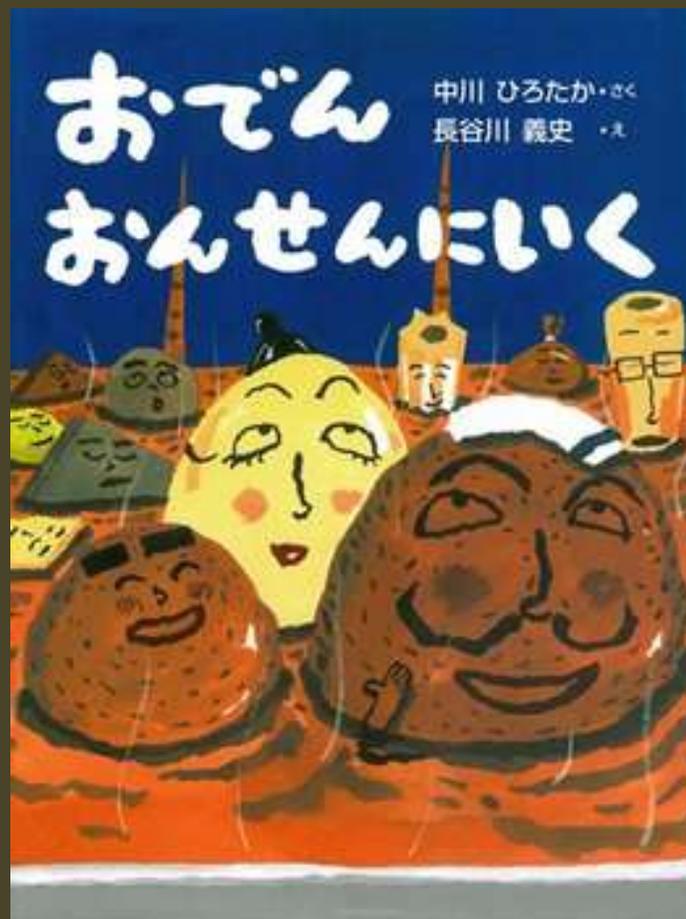




『だんろのまえで』

(作・絵：鈴木 まもる / 教育画劇)

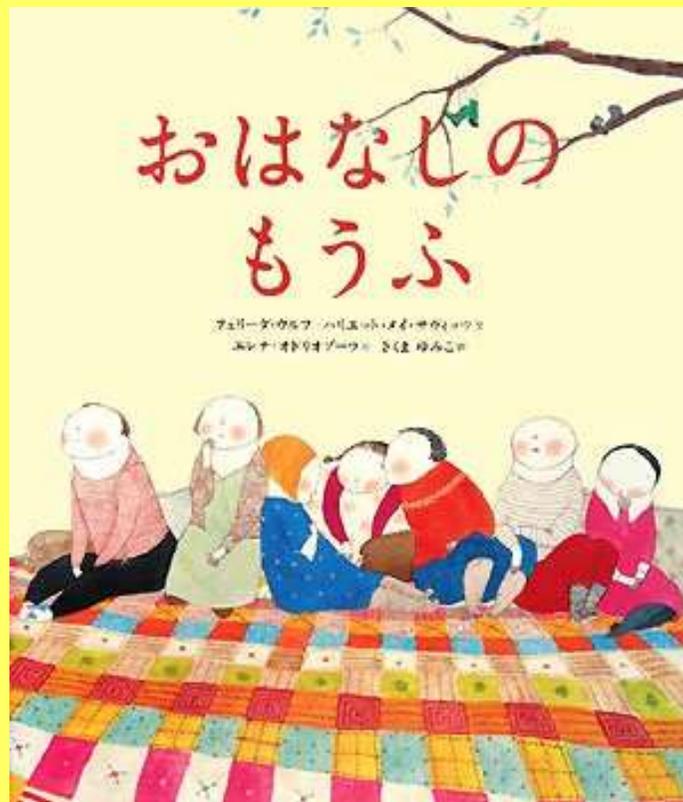
ゆきやま まよ つか は
雪山で迷い、疲れ果ててしまった
ぼくは、ドアのついた大きな木を見
つけます。そっとドアを開けると、
そこにはだんろを囲む動物たちが
いて——。読み終わると、まるで
自分もだんろの前にいたかのよう
に、心の中がぽかぽかとあたたか
くなる絵本です。



『おでんおんせんに行く』

(作：中川 ひろたか 絵：長谷川 義史 / 佼成出版社)

おでん^{かぞく}の家族が、予約^{よやく}の「おでんわ」をかけ、「おでんしゃ」^のに乗り、向^むかった先はおんせんランド！ おしるこの湯、よせなべの湯、ラーメンの湯…いろいろなお風呂^{ふろ}に、たくさん^{ぐざい}の具材たち。読んでいるうちに^{なかす}お腹が空いてしまいそうな、楽しく^{たの}笑えるお話^{はなし}です。



『おはなしのもうふ』

(作： フェリーダ・ウルフ ハリエット・メイ・サヴィッツ
絵： エレナ・オドリオゾーラ 訳： さくま ゆみこ / 光村教育図書)

むら こ けいと
村の子どもたちは、毛糸のもうふに
すわ はなし き
座ってザラおばあさんのお話を聞く
だいす ひ むら おとこ こ もと
のが大好き。ある日、村の男の子の元
けいと とど あと むら
に毛糸のくつしたが届き、その後、村
ひと つぎつぎ とど
の人たちにも次々とプレゼントが届
くようになります。やさ
きも さむ ふう よ き
気持ちになれる、寒い冬の読み聞かせ
えほん
にぴったりな絵本です。



ゆき けっしょう
『雪の結晶ノート』

(作：マーク カッシーノ・ジョン ネルソン
訳：千葉 茂樹 / あすなろ書房)

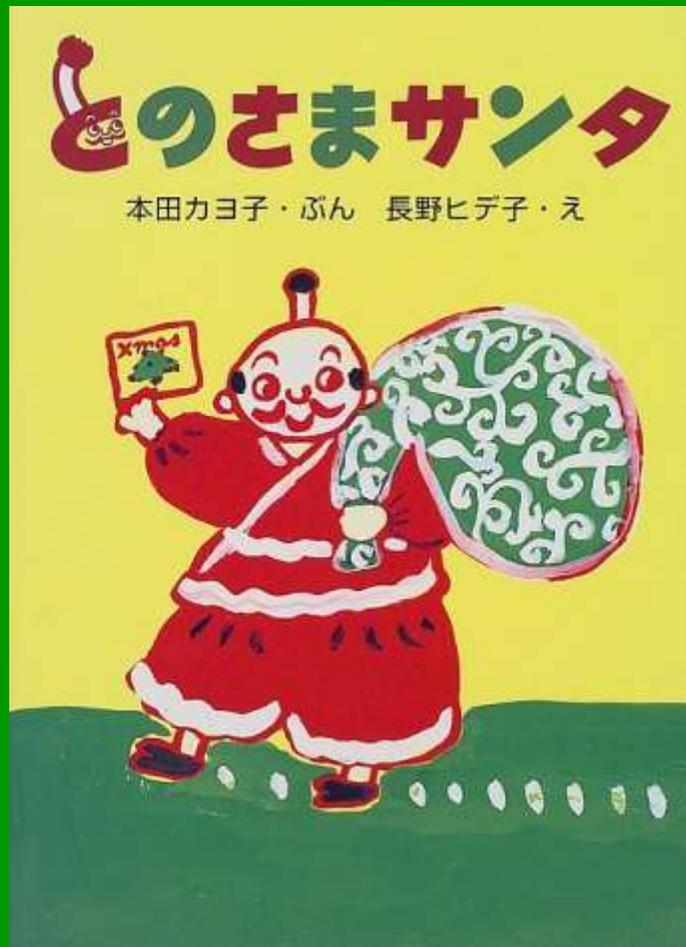
ひと おな かたち
一つとして同じ形のものはない
い さまざま かたち
と言われるほど、様々な形をして
ゆき けっしょう ゆき けっしょう
いる雪の結晶。そんな雪の結晶が
しょうかい おおがたしゃしん
たくさん紹介されている大型写真
えほん むしめがね けっしょう かんさつ
絵本です。虫眼鏡で結晶を観察す
ほうほう か
る方法も書かれているので、これか
ゆき ふ ため たの
ら雪が降ったら試してみるのも楽
しそうですね。



『クリスマスにくつしたをさげるわけ』

(作:間所 ひさこ 絵:ふりや かよこ / 教育画劇)

もうすぐ待ちに待ったクリスマス。みなさんは、クリスマスにくつしたをさげるのはなぜかを知っていますか？ この本を読めば、クリスマスがよりいっそう素敵なものに感じられることでしょう。ぜひ家族みんなで読んでみてください。



『とのおさまサンタ』

(文：本田カヨ子 絵：長野 ヒデ子 / リブリオ出版)

クリスマスにあこがれた^{にほん}日本の
とのおさま。お城をクリスマスツリ
ーのようにかざりつけたり、えん
とつを100本^{ほんつく}作らせたり、どろ
ぼうをサンタクロスと^{まちが}間違えたり
…。無^む邪^{じゃ}気^きでお^おち^ちよ^よこ^こち^ちよ^い
な^なとのお^おさま^{さま}の^{すがた}姿^{おも}に、^{わら}思^いわ^らず^{わら}笑^らって
しま^いう^い一^い冊^{さつ}です。